

令和元年6月7日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26293113

研究課題名(和文) 二国間経済連携協定に基づく外国人看護師の受入れ 摩擦と共生

研究課題名(英文) Nurse Migration under Economic Partnership Agreement: Frictions and Co-existences

研究代表者

平野 裕子(小原裕子)(HIRANO, Yuko)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授

研究者番号：50294989

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、二国間経済連携協定(EPA)に基づく外国人看護師・介護福祉士の受入れに関する日本社会における課題を、横断的・縦断的研究手法を用いて明らかにした。学際的な背景を持つ研究分担者らが行った研究は、5年間の助成期間中に40本の論文と92本の学会発表に代表される。主たる成果は、EPA看護師・介護福祉士の社会的人口学的特徴の推移に関する研究、受入れ病院・施設側の抱える問題に対する経済学的・社会学的研究、外国人看護師・介護福祉士の日本の国家試験の合格の蓋然性に影響しうる看護学的研究、外国人看護師・介護福祉士の精神的健康に影響する公衆衛生学的研究等がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、EPAに基づく看護師・介護福祉士の日本での受入れの実態を、外国人の立場からのみならず、受入れ病院・施設の観点から複層的にとらえることを目標に、定性的・定量的データを用いて把握したところにある。また比較的長期にわたる助成期間を活かし、横断的研究のみならず縦断的研究も行った。さらには研究班のメンバーの学際的特徴を生かし、社会学、経済学、看護学、公衆衛生学等の多方面から、包括的にデータを収集し、解釈を行った。これらを通して、日本における今後の医療福祉人材の受入れのための施策提言に貢献しうる基礎的なデータを収集することができた。

研究成果の概要(英文)：This research project studied the challenges and prospects of the nurses and care workers who entered Japan under the bilateral economic partnership agreements (EPAs). The research team comprised different specialists, so as to approach the issue of nurses and care workers in a multidisciplinary manner. The team have made substantial achievements, with more than 40 articles and 92 presentations throughout the 5-year period. The team's work has contributed to the Japanese society, which attempts to receive more migrant workers in the next decade, by presenting the following findings: 1) the transition of the socio-demographic characteristics of nurses and care workers who entered Japan under the EPAs; 2) the issues of hospitals/care facilities through economic analytic framework; 3) the likelihood of the passing rate of the national board examination that the nurses/care workers must overcome, and 4) the factors that predict the state of mental health of the nurses and care workers.

研究分野：保健医療社会学

キーワード：経済連携協定 外国人看護師 外国人介護職 国際労働力移動 移民

1. 研究開始当初の背景

二国間経済連携協定 (EPA) に基づく看護師・介護福祉士らの受入れが始まったのは、2008年であるが、当初は、主として移民政策に関心の高い社会科学研究者を中心に、記述的探索的研究が多くなされた。また受入れが始まってまもなくの頃は、縦断的研究も限られていた。また統計的に実証されたエビデンスによってデータを補完する triangulation もあまり行われていなかった。このため、しばしば特殊なケースを取り上げて一般化したり、欧米の移民理論を無批判に日本に当てはめることなどが起きた。

2. 研究の目的

本研究は、EPA に基づく看護師・介護福祉士の日本での受入れの実態を、外国人の立場からのみならず、受入れ病院・施設の観点から複層的にとらえることを目標に、定性的・定量的データを用いて把握した。研究デザインとしては、横断的研究のみならず縦断的研究を採用し、現象の推移や変化を長期的に把握することに努めた。これらの研究手法によって得られたデータは、社会科学のみならず、看護学、公衆衛生学等の学際領域から接近した。これらのことを通して、EPA に基づく外国人看護師・介護福祉士の日本での受入れの実態を、包括的にとらえ、日本における今後の医療福祉人材の受入れのための施策提言に貢献しうる基礎的なデータの収集を試る。

3. 研究の方法

本研究は、EPA 看護師・介護福祉士らを取り巻く複層的な社会関係を学際的に接近するため、複数の研究プロジェクトを平行して実施した。それらのプロジェクトはそれぞれの専門に応じた研究分担者に割り振られ、調査の立案、実施が行われた。各調査は、研究分担者あるいは研究代表者 (平野) のいずれかの所属機関において倫理審査を受け、許可されてから実施している。

4. 研究成果

(1) 来日する EPA 候補者の変化

EPA 候補者の最も主要な来日動機としては、フィリピンは、第一陣より「家族を支援するため」が選ばれているが、最近ではそれ以外の理由「キャリアアップのため」「日本の高度先端技術を勉強したい」も首位に上がる傾向にある。これは出稼ぎ立国フィリピンの昨今の経済発展の現状を反映していると思われ、「海外出稼ぎ」の傾向が変わってきたことを示している。

一方、インドネシア並びにベトナムにおいては、最も主要な来日動機は当初は「キャリアアップのため」であったが、最近では「家族を経済的に支援するため」も高くなる傾向にある。このことから、ステップアップの手段として日本を選ぶ傾向から、経済的出稼ぎへのシフトが起こっていることが想定される。

日本語能力については、当初より N3 を入国要件とするベトナムにおいては、他の二か国よりも客観的評価 (日本語能力試験のレベル) が高い。一方、当初は来日前日本語研修がなかったインドネシアとフィリピンにおいては、来日前研修を行うことで、主観的にも日本語能力が向上したことが見て取れる (Table 1)。なお、EPA にエントリーする前に、すでに出身国において日本語の勉強を始めている者も増加しつつある。

Your Japanese language proficiency at this moment (%)	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
Advanced (can communicate with the native speakers without any difficulties)	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8
Intermediate (no difficulty with simple daily conversation but has some difficulty with complicated conversation)	17.5	26.2	25.6	24.6	16.0	15.0	5.4
Elementary (simply daily conversation)	64.6	63.3	51.2	56.3	63.9	45.0	28.5
Beginner (can do greetings & answer questions about oneself)	17.2	10.5	22.5	19.1	20.1	40.0	65.4

(2) 受入れ病院・施設の葛藤とその背景

外国人看護師を受入れる病院、外国人介護職を受入れる介護施設は、当初職場の活性化を期待したり国際交流に貢献しながら、外国人人材に対する「様子見」をしていたことが指摘されている (小川ら、2010)。しかし、その後本研究では、外国人看護師を受入れる病院は、国家試験の指導という看護師業務とは異なる仕事を抱えて「心理的負担」を感じていた (Hirano et al., 2016)。一方、介護施設は、経済的に採算が取れれば今後も継続して外国人介護職を雇用す

る計画を立てている等、外国人看護師を受入れる病院よりもはっきりしたビジネスモデルが定着しやすいことが明らかになった (Tsubota et al., 2015)。このことは、単純労働力として外国人人材を考えた場合、コストパフォーマンスが高いのは後者の方であることを示している。

(3) 国家試験の合格に影響する要因

前述のように、国家試験の合否は、受入れ病院・施設にとって大きな関心事である。国家試験の合格率に関しては、日本語能力がカギを握る、というのが関係者の間で一般的に語られる。では、日本語能力の影響を除去した場合 (母国語で日本の国家試験を解いた場合)、どれく

1. Adult Nursing	43.0%	(60.5%)
2. Geriatric Nursing	51.9%	(88.6%)
3. Pediatric Nursing	55.6%	(83.1%)
4. Maternal Nursing	61.7%	(86.2%)
5. Psychiatric Nursing	53.2%	(85.0%)
6. Home Health Care Nursing	43.8%	(84.5%)
7. Holistic Care of Nursing Practice	47.4%	(82.3%)

らい正答するのだろうか。Table 2 はベトナム人候補者 (来日前・日本語研修開始後 8 か月目) が日本の国家試験をベトナム語に翻訳したものを、日本の国家試験と同条件下で実施した時の正答率である。分野によって正答率が異なり、母子・小児看護領域は比較的正確率が高いことが明らかになった。逆に成人・在宅看護領域は正答率が低い。これは現在のベトナムの医療や来院患者の特性にも関係があるであろう。

なお、何度も過去問題を見たことがあるものは、合格の蓋然性が高いことが、フィリピン人看護師候補者を対象とした研究でも明らかにされている (Kawaguchi et al., 2012)。

本研究開始以降、ベトナム人看護師・介護福祉士が入国し (2014 年) 受入れ初年度から国家試験の合格率が他の先発 2 カ国の追随を許さない状況になっている。これは、ベトナム人看護師らは、当初は決して高くはない国家試験の正答率を、基礎的な日本語能力を生かして何度も過去問題を解くなどした結果、高い点数を獲得することができたからと考えられる。

(4) 日本での適応に関する現状とその背景

EPA 看護師・介護福祉士の適応度合いは、入国時の EPA のコース (看護師または介護福祉士) によって、来日後の適応度合いが変わってくるのが明らかになった。Table 3 は、インドネシア人看護師・介護福祉士の来日一年後には、精神的健康度を規定する要因構造を表したものである。看護師においては、疲労度、社会的適応度、社会的支援が有意に精神的健康度を規定していたが、介護福祉士においては、現在の経済状況、現在の仕事に関する不満等が加わる。これは、看護師の業務が母国のそれと共通しているため過度な期待を抱くことが少ないのに対し、介護職は母国では存在しない福祉職であることから、後者において、まったく新しい仕事に関する様々な不満が、精神的健康度に影響していることが考えられた。

Table 3 The correlation coefficient between the GHQ-12 scores and independent variables

Variables	Correlation coefficient	
	Nurse	Care worker
Age	.242	.112
Current economic condition ^a	-.226	-.312*
Satisfaction with the support from the preceptor in preparing for the NBE ^b	-.151	-.325**
Working hrs	.044	.212
Total study hrs	.218	-.081
Focus for the NBE ^c	-.251	-.221
Confidence about passing the NBE ^c	-.238	-.174
Fatigue ^d	-.382*	-.418**
Job satisfaction ^b	.113	-.522**
Struggle against the current working status as a candidate ^e	.086	-.380**
Self-rated language proficiency ^f	.130	.085
Expectations about the length of stay	.283	.144
SCAS	-.707**	-.404**
MSPSS	-.625**	-.373*

Note. GHQ-12 = General Health Questionnaire; NBE = National Board Examination; MSPSS = Multidimensional Scale of Perceived Social Support; SCAS = sociocultural adaptation scale.

Terms of measurement:

^a1 = Very difficult to survive, 2 = Difficult to survive and 3 = Not so difficult to survive.

^b1 = Not satisfied at all, 2 = Not very satisfied, 3 = Somewhat satisfied and 4 = Very satisfied.

^c1 = Not at all, 2 = Not very, 3 = Somewhat, 4 = Very.

^d1 = Always, 2 = Sometimes, 3 = Seldom and 4 = Never.

^e1 = Not struggling at all, 2 = Not struggling so much, 3 = Somewhat struggling, 4 = Struggling very much.

^f1 = Beginner, 2 = Elementary, 3 = Intermediate, 4 = Advanced.

*p < .05.

**p < .01.

<引用文献>

- 小川玲子、平野裕子、川口貞親、大野俊：来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第1報）：受け入れの現状と課題を中心に、九州大学アジア総合政策センター紀要、5、85-98、2010.
- Kawaguchi Y, Hirano YO, Ogawa R, Ohno S: Exploring learning problems of Filipino nurse candidates working in Japan: based on the Results of a practice national board examination of Japan given in English. Southeast Asian Studies, 49(4), 643-651, 2012.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計40件)

1. Hirano YO: "Double-standard employment" under JPEPA: the bilateral agreement and its implications for Filipino nurse migration to Japan. Asian Stud 52(2):33-54, 2018 (査読有)
2. Nugraha S, Hirano YO: The mental health predictors of Indonesian EPA nurses and certified care worker candidates in Japan. Jpn Psychol Res 58(1): 85-96, 2016 (査読有)
3. HiranoYO, Tsubota K: The economic and psychological burden to hospitals and care facilities of accepting EPA candidates in Japan. Int J Jpn Sociol 25: 40-53, 2016 (査読有)
4. Tsubota K, Ogawa R, Ohno S, Hirano YO: A study on the cost and willingness to recruit EPA foreign nurses and care workers in Japan, from the angle of hospitals and care facilities. Health Sci Res 26: 45-53, 2015 (査読有)

[学会発表](計92件)

1. Hirano YO: "Can brain circulation be possible? The second career quest of Indonesian nurses returned from Japan", XIX World Congress of Sociology, 2018
2. Ogawa R: Examining the transnational care labor market: national care systems, transnational imaginaries, and new-liberal ambitions, 4th Philippines Studies Conference, Japan, 2018
3. Ogawa R: Migration and Care: Regional care chains in East Asia, International Political Science Association, 2018

[図書](計19件)

1. 平野裕子：古くて新しい問題としての看護人材育成 EPA 看護師の導入を中心に、宮崎里司・西郡仁朗・神村初美・野村愛編、外国人看護・介護人材とサステナビリティ 持続可能な移民社会と言語政策、4-15、くろしお出版、2018
2. 天野ゆかり：外国人人材の定着の可能性と求められる役割 ベトナム人看護学生に対するアンケート結果を踏まえて、宮崎里司・西郡仁朗・神村初美・野村愛編、外国人看護・介護人材とサステナビリティ 持続可能な移民社会と言語政策、256-266、くろしお出版、2018

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：大野 俊

ローマ字氏名：OHNO, Shun

所属研究機関名：清泉女子大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：10448409

研究分担者氏名：小川 玲子

ローマ字氏名：OGAWA, Reiko

所属研究機関名：千葉大学

部局名：大学院社会科学研究院

職名：准教授
研究者番号（8桁）：30432884

研究分担者氏名：坪田 邦夫
ローマ字氏名：TSUBOTA, Kunio
所属研究機関名：明治大学
部局名：農学部

職名：教授
研究者番号（8桁）：40432885

研究分担者氏名：川口 貞親
ローマ字氏名：KAWAGUCHI, Yoshichika
所属研究機関名：産業医科大学
部局名：産業保健学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：00295776

研究分担者氏名：藤崎 郁
ローマ字氏名：FUJISAKI, Kaoru
所属研究機関名：長崎大学
部局名：医歯薬学総合研究科（保健学科）
職名：教授
研究者番号（8桁）：30285358

研究分担者氏名：比留間 洋一
ローマ字氏名：HIRUMA, Youichi
所属研究機関名：静岡大学
部局名：国際連携推進機構
職名：特任准教授
研究者番号（8桁）：30388219

研究分担者氏名：天野 ゆかり
ローマ字氏名：AMANO, Yukari
所属研究機関名：静岡県立大学
部局名：短期大学部
職名：講師
研究者番号（8桁）：60469484

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。